

令和３年度第１回郷土文化館協議会 概要

１ 日 時 令和３年 11 月 19 日（金） 午後 2 時～3 時 35 分

２ 会 場 小田原市郷土文化館 会議室

３ 出席者

（１）郷土文化館協議会委員

一寸木委員長、鳥居副委員長、田尾委員、高橋委員、田嶋委員、山下委員、高松委員

（２）市事務局側

柳下教育長、鈴木文化部長、尾沢文化部副部長、湯浅生涯学習課長、

鈴木郷土文化館係長、田中主任、中村主任、吉野主事

４ 会議の概要

教育長の挨拶の後、委員及び職員が自己紹介を行った。その後、正・副委員長の選出に移り、委員の互選により委員長に一寸木委員、副委員長に鳥居委員が選出された。その後、議事に移り、進行は一寸木委員長が行った。

（１）議題４ 報告事項(1)「令和２年度・令和３年度上半期 郷土文化館事業について」 （資料１～12）

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

① 「令和２年度 施設管理・整備活用関係業務 実施概要」（資料５）について

（委員） なぜ工期が本年の 6 月まで延長したのか。

（事務局） 事務局より、地域住民からの外周フェンスの更新についての意見があり、それを受けて設計変更したため工期が延びた。

（委員） 工事以前のフェンスの状況はどうか

（事務局） もともと緑色の網目フェンスがあったが、今回の工事で周囲の景観を考慮し、茶色の鉄格

子柵を設置した。

② 「２ 資料収集関係」（資料４－２）について

（委員） 採集とは、資料を収集する際に使う言葉でない。採集は考古資料の表面採集や昆虫を収集する際に使用する言葉である。採集という言葉について再考が必要である。また市役所内部から寄贈を受けた資料であるならば、移管替えとすべきではないか。

（事務局） 市役所内部では、移管替えとすべき資料もあるが、移管替えにあたらない資料もあり、後者を採集とした。近年、採集として報告している件数が増加しているのは、いままで受け入れ処理をしていなかった資料が館内整理で見つかったことも一因である。

（委員） 資料収集は計画を立てて行っているのか。

(事務局) 資料収集方針があり、寄贈の申し出があったときは、これを基に受入の可否を判断している。現在は積極的に資料を購入できていないが、これについては博物館基本計画を定める中で、方向性を検討していきたい。

(委員) 資料の保存や管理はどうしているのか。また収蔵庫に空きスペースはあるのか。

(事務局) 資料の保存や管理は郷土文化館で行っているが、収蔵庫の空スペースは飽和状態である。

(委員) 博物館の整備を見据えると、収集できるのはいまのうちではないか。

(事務局) 収蔵庫の問題は郷土文化館だけでなく文化財課の埋蔵文化財の収蔵についても同じ状況である。博物館の話と収蔵庫の話は、切り離しながらも連携してできることを進めていく必要がある。また、文化財課の職員とともに厚木市が新たに整備した収蔵庫を見学に行き、なるべくコストをかけずに解決できる方法を模索中である。

(委員) 埋蔵文化財の収蔵と博物館の考古資料の収蔵とは切り分ける必要がある。展示・公開に適した資料については、移管を受けるのが良い。博物館と埋蔵文化財行政を一緒にしてしまうと、資料が増え続けていく一方で扱いにくくなってしまう(例：大磯郷土資料館)。切り分けながらも、連携できるほうが良い。厚木市の収蔵庫の例は、とても参考になるのではないか。

③ 「令和3年度上半期(4～10月)学校利用状況」(資料7-3)について

(委員) 市内の高校3件とは団体で来館するのか。

(事務局) 高校生全体が来館するのではなく、グループで入館した際の記録である。

④ 「令和3年度上半期(4月～10月)博物館構想推進事業における取組概要」(資料12)について

(委員) 「今後の本市の現状に則し～」とはどういう意味なのか。

(事務局) 博物館基本構想にある一文を引用している。

(委員) 博物館の整備については、ハード面とソフト面があり、博物館の建設が具体的になった場合、やるべきことはかなり多いので、今できるソフト面の事業については、進めておかなければならない。今後の展示についてもプランニングしておくことが必要である。

(委員) 講座や講演会の受講者の質をあげることも必要である。コロナ渦であってもZOOM等を使えるようにすれば、開催も可能。受講する側もそういった新しい技術を勉強し使えるようになる。

(委員) 基本計画の策定に向けた手法の検討は行っているのか。用地が見つからない状態が長く続けば、基本構想だけ古くなってしまわないか。

(事務局) 基本計画は、用地が決まらないと館の性格を定めることがなかなか難しい。

(委員) 基本構想では、小田原城周辺で用地を検討することになっているが、規模が定まらないうと先に進めないのではないか。今できることについては、進めていかなければいけない。

⑤ 「令和３年度 資料調査・収集・管理等業務 実施計画」(資料９－１)について

(委員) 市役所のHPに郷土文化館の資料を掲載しているが、今後データが膨大になった場合は独自のHPを作る予定であると思うが、見通しはどうか

(事務局) 現在市では総合計画の見直しを行っており、クリアしていかなければならない様々なハードルがあり、すぐに博物館新設に関わる問題を解決するのは難しい現状である。そこでハード面の整備までの間はデジタルミュージアムの準備も進めている。また収蔵庫も生涯学習課だけでなく文化部の中でも同じような問題を抱えている課がある。部全体で、収蔵庫を建てることのできる土地がないか検討を行っている。

課をまたいだ資料データの一元化に向けた統一のフォーマットの作成も進めているところである。これらの作業は、時間がかかるが地道に進めていきたいと考えている。

(２)議題５ 協議事項「令和３年度下半期 郷土文化館事業について」(資料１４～１８)

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

① 「令和２年度 展示事業 実施計画(案)」(資料１４－２)について

(委員) 松永記念館の特別展示をプレ展示として三の丸ホールで展示を行うとしているが、後日行う松永記念館での展示とで展示する作品に重複が生じるのか。また、近藤弘明氏の作品の展示を三の丸ホールと松永記念館とに分けた理由と入場料はどうなるのか。さらに収蔵洋画展について、詳細を教えてください。

(事務局) 三の丸ホールは近藤氏の大型の作品を展示し、その後に行う松永記念館での展示を周知する意味で行うプレ展示である。作品については、重複するものがある。また松永記念館は和の空間なので屏風の作品をメインに展示する。観覧料については、三の丸ホールでは無料、松永記念館では有料とする。

収蔵洋画展については、生涯学習課(松永記念館)にて収蔵している小田原ゆかりの画家の作品を出す予定である。

(委員) 連携展示について。連携という言葉は、異なった組織どうしがアイデア等を出し合って進めていくという意味合いだと思うので、マンパワーを分け合うことや場所の提供だけでは、連携とはいえないのではないかと。

(事務局) 展示にあたって受付などを市民団体に協力してもらうこともあり連携とした。さらに関係者との調整で名称が悩ましかった。

② 「令和2年度 資料調査・収集・保管事業等業務 実施計画（案）」（資料 16-1）について

（委員） 1市3町（南足柄市・箱根町・真鶴町・湯河原町）は自然災害伝承碑についての調査が終わりデータは地図上にアップロード済みである。もう間もなく完了するという状況である。小田原市も取り組んでいるとのこととてもうれしいことである。石造物の調査も行っているので、結果をだしていただきたい。

（3）その他 次回開催日について

事務局から次回の開催日は、2月の初旬、会場は松永記念館とする予定で、詳細は後日改めて、日程の調整を行うと委員に伝えた。

以上をもって協議を終了、その後、文化財課主催の「最新出土品展 2021」の見学を行った。